

適応疾患/乳がん

プロトコール名 **P-M-17 / ペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法**

薬剤名・用量	備考	投与方法	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
① 生理食塩水50mL	ルート確保	点滴静注		↓																				
② ペルツズマブ 初回840mg/body 2回目以降420mg/body 生理食塩水250mL	60分 ※1	点滴静注		↓																				
③ 生理食塩水50mL	60分 ※1	点滴静注		↓																				
④ トラスツズマブ 初回8mg/kg 2回目以降6mg/kg 生理食塩水250mL	90分 ※1	点滴静注		↓																				
⑤ グラニセトロンバッグ3mg/100ml デキサメタゾン6.6mg	30分	点滴静注		↓																				
⑥ ドセタキセル 75mg/m² 5%ブドウ糖液 250ml	60分	点滴静注		↓																				
⑦ 生理食塩水50ml	フラッシュ			↓																				

1クール21日間

ドセタキセル減量方法 開始量75mg/m²→60mg/m²→50mg/m²

※1 ペルツズマブ、トラスツズマブの初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

- ・ 投与開始前に、心エコーなどによりLVEF(左室駆出率)が十分であることを必ず確認して下さい。
(文献での選択基準はLVEF≥50%のものとLVEF≥55%のものがあり)
- ・ 投与開始後も、4クール毎に心機能検査(心エコーなど)を行って下さい。心症状の発現状況や重篤度によっては期間を短縮して検査して下さい。
- ・ ドセタキセルは6クールまで継続し、それ以降は主治医の判断にて継続する。
- ・ ペルツズマブ、トラスツズマブはInfusion reactionの発生リスクを考慮し、投与後経過観察が必要。
- ・ 術前術後化学療法と進行再発に対する化学療法では中止減量基準や開始基準が異なるため、注意が必要。
- ・ 術前・術後化学療法の場合には、投与期間は12カ月までとする。
- ・ 前回投与から投与間隔が6週間以上開いた場合、ペルツズマブ及びトラスツズマブともに初回投与量で投与することが望ましい。